



あふれる笑顔
豊かな自然
住みたいまちへ

登米市市制施行20周年記念誌





夢、笑顔、希望 共に輝く明日へ



本市は、平成17年4月1日、登米郡の迫町、登米町、東和町、中田町、豊里町、米山町、石越町、南方町と本吉郡の津山町の合併により誕生し、面積536平方キロメートル、人口9万1千人、世帯数2万6千戸の県下3番目の規模の市として新たな歴史を踏み出しました。

この20年の歩みは、決して平坦なものではなく、記念すべき市制施行20周年という大きな節目を迎えることができましたことは、感慨無量であり、これもひとえに、本市発展のため、ご尽力された先人のご努力と、市民の皆さまや関係者の皆さま方の多大なご支援、ご協力のたまものであると、心から感謝を申し上げます。

さて、これまでの歩みを振り返りますと、まちづくりの主体は市民であるという考えのもと、「協働による登米市の持続的な発展」を基本理念とし、さまざまな施策の推進に市一丸となって取り組んでまいりました。

本市の持つ豊かな自然環境や資源を活用し、市民皆さまによる地域の連帯と助け合いのもと、活気と魅力にあふれる登米市を実現し、後世に引き継ぐことができるよう、次の20年、30年を見据えた新たな取り組みを進めてまいります。

この度、本市のこれまでの歩みを中心に、記念誌を発行いたしました。この記念誌で登米市が20周年を迎えられた喜びを皆さまと分かち合うとともに、魅力を再確認し、ふるさと登米市への誇りや愛着をより深めていただく一助になることを願っております。

今後とも本市が発展し続けるために、より一層のご理解とご協力をよろしく願います。

令和7年4月

登米市長 熊谷 成之廣

「住みたいまち」の実現へ



防災

市民の安全・安心を確保するため、地域防災計画を見直しながら、災害時に自助・共助活動が円滑に進むように、自主防災組織の育成に取り組み、消防・防災体制の充実を図ってきました。

現在は、災害発生時に、避難支援を必要とする避難行動要支援者に対して、「誰が」「誰を」「どう支援するか」などをあらかじめ定める個別避難計画の策定を進めています。

全国各地で大きな災害が発生していることから、市民の防災意識の向上を図りながら防災機能を強化し、災害に強いまちづくりを目指します。

本市の基幹産業である農業では、スマート農業の導入支援や、新規就農者の確保と育成に努めてきたほか、持続可能な林業経営に向けて取り組んできました。

商工業については、中小企業や小規模事業者に対し、経営の安定化に向けた商品開発や販路開拓などの支援をしてきました。

令和6年産米の価格が上昇するなど、明るい兆しもありますが、生産資材や燃料などの物価高騰により、依然として厳しい経営状況が続いているため、引き続き産業振興に力を入れていくとともに、企業誘致や観光振興も推進していきます。



産業



環境

本市の豊かな自然環境を後世に残していくため、登米市環境基本条例を制定し、環境と産業が共生する持続可能なまちづくりに取り組んできました。

令和4年2月には、2050年までに二酸化炭素排出量実質ゼロの実現を目指す「ゼロカーボンシティ」を表明しました。農林業分野では、有機農業や林業を推進し、温室効果ガスの削減を目指して、令和6年12月に県内初となるオーガニックビレッジを宣言しました。

環境保全活動を推進するとともに、子どもたちへの環境教育を充実させるなど、市民の環境問題への意識向上を図っていきます。

子どもたちの学力の向上を目指し、主体的に学び、授業を通して学力向上を図る本市独自の授業スタイル「登米市学習スタンダード」に取り組み、「分かった」「できた」と実感する児童生徒が増えてきました。

変化の激しい社会に対応できるよう、ICT教育やDX化を進め、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を目指します。

全ての児童生徒が平等で質の高い授業を受けることができるように環境を整えるとともに、豊かな人間性を育むため地域伝承文化の継承にも力を入れていきます。



教育・文化



子育て

産前・産後サポート事業や産後ケアをはじめとする相談支援、子育て支援センターなどによる子育て支援、結婚新生活支援事業や誕生祝金、医療費や予防接種費用の全額助成による経済的な支援など、結婚から妊娠、出産、子育てまで切れ目のない支援をしています。

また、幼保連携型認定こども園の整備を進め、令和3年度以降は保育所待機児童数をゼロにするなど、保育環境の充実にも努めてきました。

仕事と子育てを両立させ、安心して子育てができるように支援し、全ての子どもが健やかに成長できる社会の実現を目指します。

質の高い医療を安定的に提供するため、登米市民病院が臨床研修病院の指定を受けるなど、医師の確保に努めてきました。

コロナ禍においては、県内で最初に発熱外来を設置したほか、事前に会場と時間を通知し、予約不要で早期にワクチン接種できるように取り組みました。市民の命と暮らしを守り、心と体を癒やす医療の提供を目指します。

福祉では、住み慣れた地域で安心して生活し続けられるように、地域包括ケアシステムの充実のほか、認知症予防や介護予防などに取り組んできました。一人一人に寄り添った支援やサービスの提供を進めていきます。



医療・福祉

登米市20年のあゆみ



12 市制施行10周年記念式典では、10周年を記念して制定した市民歌を約170人が合唱。美しい歌声で式典に花を添えた13合唱の伴奏は本市出身で世界的ピアニストの及川浩治氏が務めた



10 東日本大震災で甚大な被害を受けた東和総合運動公園11石巻市や南三陸町などの沿岸部からの避難者を受け入れ、ピーク時には6230人が市内53箇所の避難所に身を寄せた10東日本大震災からの復興を祈念して開催された東北風土マラソンには国内外から1233人のランナーが集結11東和総合運動公園に、雨が降っても使用できる人工芝の多目的グラウンドがオープン



1 登米郡8町と本吉郡津山町が合併し、平成17年4月1日に登米市が誕生。迫り舎の玄関前で開庁式が行われた2 市長選に当選し、初登庁する布施前市長3 約700人が出席した開市記念式典で、720点の応募の中から選ばれた市章が披露された4 5 6 7 市制施行5年の節目までに、合併の契機となった消防防災センターなど広域4事業の整備が完了。防災、環境衛生、高齢者福祉の拠点施設が完成した



平成27年	平成26年	平成25年	平成24年	平成23年	平成22年	平成21年	平成20年	平成19年	平成18年	平成17年				
9月	6月	4月	3月	2月	5月	4月	3月	7月	3月	10月	3月	12月	11月	4月

9 町が合併して登米市が誕生。布施孝尚氏が市長に就任
登米市市章を制定し、開市記念式典を開催
登米市市民憲章を制定
登米市総合計画を策定
消防署北出張所が完成
中生涯学習センターが完成
豊里小学校の校舎が完成し、4月から小・中一貫校に
三陸縦貫自動車道桃生津山インターチェンジが開通
サトル・サトウ・アート・ミュージアムがオープン
豊里水辺の公園が開園
消防防災センター、津山総合支所が完成
新田小学校、上沼児童活動センターが完成
東北初となるご当地ナンバープレート（コメ型）交付開始
斎場（火葬場）が完成
登米児童館が完成
三陸縦貫自動車道登米インターチェンジが開通
きたかみ園が完成
高倉勝子美術館桜小路がオープン
三陸縦貫自動車道登米東和インターチェンジが開通
衛生センター、豊里公民館、豊里総合支所が完成
登米市花鳥木を制定
北上川河川歴史公園が開園
東日本大震災が発生
だれもが生き生きと暮らせる登米市男女共同参画推進条例を制定
市立病院を再編
登米診療所が完成
消防署西出張所が完成
登米市まちづくり基本条例を制定
佐沼小学校の校舎が完成
西部学校給食センターが完成
登米市民病院救急外来棟・地域医療連携センターが完成
消防署南出張所、上沼診療所が完成
東日本大震災で被災した石越中学校の新校舎が完成
第1回東北風土マラソン開催
長沼ダムが完成
登米市市民歌を制定
消防署東出張所が完成
登米総合産業高校が開校
東和総合運動公園多目的グラウンドが開校
市制施行10周年記念式典を開催
消防署津山出張所が完成
第二次登米市総合計画を策定





15



12



16



13



9



10



14

9 NHK連続テレビ小説「おかえりモネ」は長沼ボート場クラブハウスや森舞台などで撮影された10東京オリンピック・パラリンピックに向け、ポーランドのボートチームが長沼ボート場で合宿。市内の児童生徒との交流会も開催し、ポーランドの文化を学んだ



7



8



4



5



6



2



1



3

1道の駅三滝堂の敷地内にはRVパークやドッグランも整備2所信表明で「次世代を担う若者たちが集い、地域がふれあい、笑顔のあふれるまちを目指す」と述べ、熊谷市政がスタート3長沼ボート場クラブハウスのオープニングセレモニーにはオリンピックの君原健二氏と桐生祥秀氏が駆け付けた

12本市出身の選手が活躍し、仙台育英学園高校硬式野球部が東北地方の高校で初となる夏の甲子園優勝を果たした13もくもくランドの復旧工事が完了し、リニューアルオープン14市制施行20周年記念ロゴマークを市内の高校生を対象に募集し、16作品の中から佐藤羽矢さん(石越町第一)の作品が選ばれた15「登米市人権擁護に関する条例」を制定。人権のつどいでは、人権作文コンテスト入賞者の星萌花さん(南方町若下)が作文を朗読16県内初となるオーガニックビレッジを宣言。地域ぐるみで有機農業を拡大することを目指して新たなスタートを切った

4高森パークゴルフ場は54ホールを備えた県内最大級の規模を誇る5隈研吾氏が設計した新登米懐古館がオープン6とめふるさと大使の第1号に隈研吾さんを委嘱7800年以上の伝統を誇る「米川の水かぶり」がユネスコ無形文化遺産に登録。モニターで審査の様子を見守り、登録が決定した瞬間、歓喜に包まれた8豊かな自然を肌で感じることが出来る宮城オルレ登米コースが誕生

令和6年	令和5年	令和4年	令和3年	令和2年	令和元年	平成31年	平成30年	平成29年	平成28年
12月	4月	12月	12月	3月	9月	12月	9月	4月	9月
11月	1月	8月	8月	10月	6月	11月	6月	12月	11月
7月	9月	7月	7月	12月	3月	9月	3月	9月	11月
6月	1月	4月	3月	5月	3月	6月	3月	5月	9月
4月	4月	2月	2月	2月	2月	2月	3月	3月	12月
1月	1月	5月	5月	5月	5月	2月	2月	4月	11月

証明書のコンビニ交付サービス開始
市ステイプロモーションのロゴマークとPR動画が完成
一般廃棄物第2最終処分場が完成
市有林がFSC森林認証(FM認証)を取得
道の駅三滝堂がオープン
飛鳥未来きずな高校が開校
第2代市長の熊谷盛廣市政がスタート
姉妹都市のサウスレイク市長団が登米市を表敬訪問
全国和牛能力共進会で本市の出品牛が県内初の日本一に
下り松ポンプ場が完成
全国ボートサミットが本市で開催
長沼ボート場クラブハウスがオープン
米川の水かぶりがユネスコ無形文化遺産に登録
みやぎ県北高速幹線道路中田工区が開通
米谷病院が完成
迫児童館が完成
高森パークゴルフ場がオープン
新たな登米懐古館がオープン
隈研吾氏がとめふるさと大使に就任
令和元年東日本台風(台風第19号)で221棟の住家が被災
新たなクリーンセンターが稼働開始
新型コロナの影響で市内の小中学校が休校に
宮城オルレ登米コースがオープン
一般国道346号錦織バイパスが開通

新型コロナ対策で県内初となる発熱外来を開設
登米市民病院が臨床研修病院に指定
豊里こども園が完成
新型コロナウイルスワクチンの集団接種開始
NHK連続テレビ小説「おかえりモネ」が放送開始
東京オリンピックポロランドボートチームが事前合宿
東京パラリンピックポロランドボートチームが事前合宿
みやぎ県北高速幹線道路佐沼工区が開通

「ゼロカーボンシティ」を表明
津山町沢田地区の棚田が「つなぐ棚田遺産」に認定
ポーランドへの人道支援寄付金口座を開設
仙台育英学園高校東和蛸雪校舎が開校
本市が「トキとの共生を目指す里地(B地域)」に選定
仙台育英学園高校硬式野球部に本市初の栄光の盾を贈呈
登米市子ども子育て条例を制定

令和元年東日本台風で被災したもくもくランドが復活
令和4年3月の地震で被災したオランダ風車が復活
津山児童活動センターが完成
林道「登米東和線」が開通
登米市人権擁護に関する条例を制定
20周年記念プレイイベント「登米市絆祭り」開催
20周年記念プレイイベント「TOMEアカデミア」開催
市制施行20周年記念ロゴマークが決定
20周年記念事業「人権のつどい」開催
オーガニックビレッジを宣言





登米市の花・鳥・木

平成22年10月1日制定



「桜」

公園、学校、寺社など、市内のいたるところで見られ、名所も多く、春を告げる花として、世代を超えて市民に親しまれています。



「はくちょう」

伊豆沼をはじめ、市内各地に飛来し、冬の使者として、また、家族や仲間の絆を大切に作る鳥としても知られ、登米市の自然・環境保護の象徴です。



「すけ」

里山、寺社やいぐねなど、身近に生育し、地域産材として広く知られ、まっすぐ伸びる姿を登米市の発展に重ね合わせています。

登米市市民歌

平成27年2月1日制定

作詞 松尾 江里也

作曲 松長 誠

編曲 小山 和彦

- 1 そよぐ稲穂は しあわせ色だ
豊かな水は 夢色だ
はくちょう飛び来る 絆の里に
咲くは桜か 喜びか
ああ 登米市に安らぐ 笑顔あり
ああ 登米市に安らぐ 笑顔あり
- 2 きょうの暮らしも 礎みれば
気高い歴史 あってこそ
進歩を楽しみ 古きに学び
手と手とりあう 町文化
ああ 登米市にゆかしき 浪漫あり
ああ 登米市にゆかしき 浪漫あり
- 3 明日にまっすぐ 理想を伸ばす
手本のような 杉木立
いのちを尊び 山河に抱かれ
愛が漲る わが郷土
ああ 登米市に未来の 息吹あり
ああ 登米市に未来の 息吹あり

登米市市民憲章

平成17年12月5日制定

1. わたしたちは、夢や希望を持ち、生き生きとしたまちをつくります。
1. わたしたちは、健康で働き、豊かなまちをつくります。
1. わたしたちは、スポーツや文化に親しみ、明るいまちをつくります。

登米市市章

平成17年11月1日制定

登米市の頭文字、ひらがなの『と』をモチーフにデザイン化しています。「水・緑・太陽」、「豊かな実り」、「元気な市民」をイメージするとともに、未来に向かって飛翔・発展する登米市、登米市民を力強く表現しています。



一人一人の願いが 未来を創造する力に

シティプロモーション ロゴマーク



平成28年11月決定
広大で肥沃な登米耕土の魅力と、そこで伸び伸びとたくましく生きる人々の活力を一体化して表現しています。

市制施行20周年記念 ロゴマーク



令和6年11月決定
制作者：佐藤羽矢さん(石越町第一)
オランダ風車など、登米市の魅力をたくさん詰め込んだデザインとなっています。

夢の実現へ
新たな一步を
今、ここから——



登米市市制施行20周年記念誌



発行：登米市
〒 987-0511
宮城県登米市迫町佐沼字中江 2 丁目 6 番地 1
Tel : 0220-22-2111 Fax : 0220-22-9164
<https://www.city.tome.miyagi.jp/>

